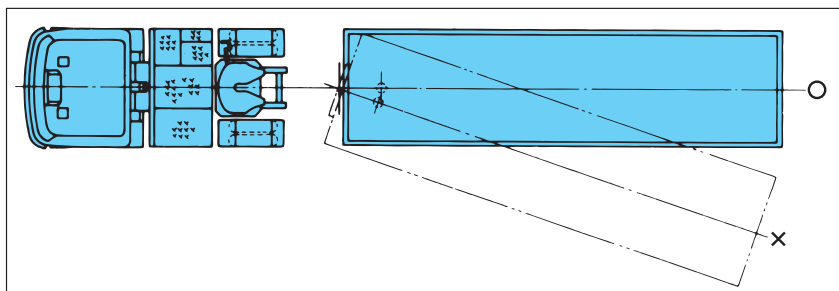


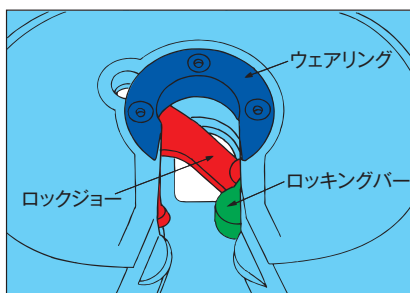
# トレーラ連結時の注意事項及び CD(2軸式)カップラ取扱いアドバイス

カップラはトラクタとトレーラを連結する極めて重要な部品です。  
取扱いには充分注意して、事故のないよう務めて下さい。

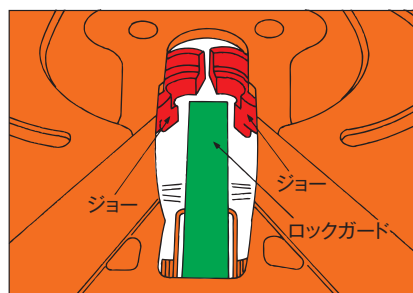
1. 連結、切り離しの操作は平坦な路面で行い、かつトラクタとトレーラはできるだけ直線になるように行って下さい。  
連結、切り離しの時は、トレーラに駐車ブレーキが掛かっていることを必ず確認して下さい。



2. 連結の前にはカップラのジョーが開いている事を確認して下さい。もしも閉じている場合には操作ハンドルを引いてジョーを開いて下さい。

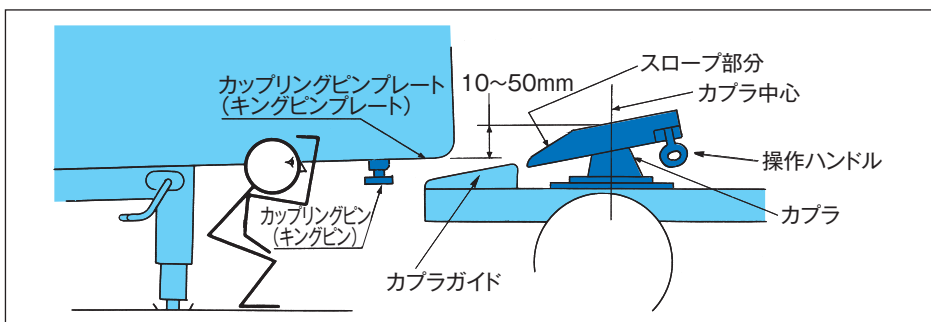


HP-1300/JSK42



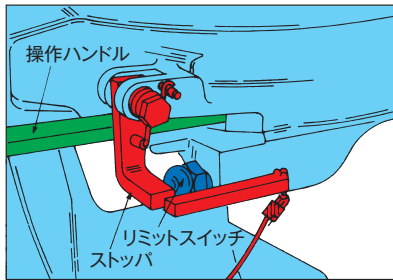
CP-1300~2510/CD-1200~2000

3. トレーラのランディングギヤーを操作して高さを調整します。カップリングピンプレート（キングピンプレート）の高さをカップラ中心の上端高さより 10mm ~ 50mm 低い位置に合わせて下さい。  
尚、エアサストラクタの場合、カップリングピン（キングピン）の真下でカップラの高さを上げて調整を行うことは連結不良の原因となりますので絶対に行わないで下さい。

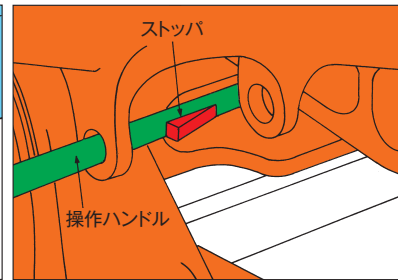


4. トレーラを連結してカップラのジョーが閉じると、メータパネル内のカップラロック表示ランプが点灯します。

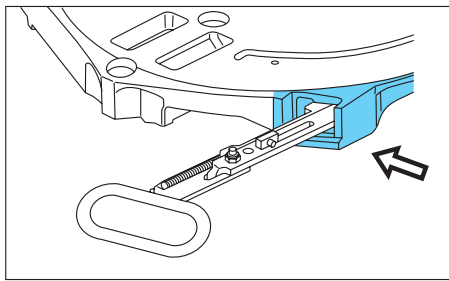
- 5.** カブラの操作ハンドルが完全に戻ってストップが掛かっていること(JSK42はカブラの前側から見て赤色のインジケータピンがカブラベースの中に入り、見えない位置にあること)を、**目視により確認して下さい。**ストップが掛かっていない(JSK42はカブラの前側から見て赤色のインジケータピンが見える)場合は連結が完了していません。再度、連結操作を繰り返して完全にストップが掛かったことを確認して下さい。



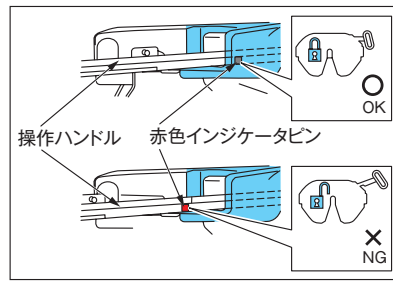
HP-1300



CP-1300~2510/CD-1200~2000

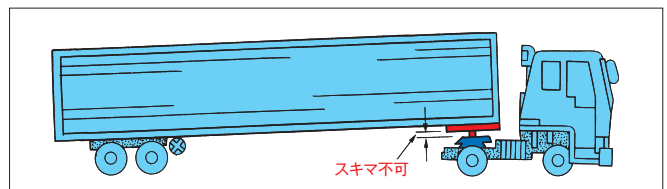


JSK42



(カブラの前側から見て)

- 6.** 次にカブラのベース面とカップリングピンプレートとの面が密着していることを確認して下さい。隙間が生じている場合は正しい連結ではありません。一旦切り離して連結し直して下さい。



- 7.** 以上の確認が終了して、ブレーキホースとケーブルの接続が完了しましたら、発進時にトレーラブレーキを掛けたままでトラクタを発進してみて、確実に連結されていることを確認してから走行して下さい。

- 8.** 運転中に休憩などで車両から離れたときには、いたずらなどによりカブラの操作ハンドルが引かれて、ストップが外されていないかを必ず確認してから発進して下さい。

※以上の注意事項を必ずご確認のうえ走行して下さい。(くわしくは取扱説明書をごらん下さい)

## アドバイス

路面凍結の多い地方を走行し、道路に散布された融雪剤(塩化カルシウム)などがカブラに付着したまま放置するとさびが発生し、カブラのピッチング及びローリングの作動部分が固着して動作しなくなるなどの悪影響を及ぼします。

日常の給油脂と共に、特に融雪剤(塩化カルシウム)などがカブラに付着した場合には、スチーム洗浄などを行いブラケット左右軸受部のグリースニップル、ローリングシャフト前後のグリースニップルに<sup>\*1</sup>指定の新しいグリースを日常的に十分給脂して下さい。

尚、各部の給油脂要領は、取扱説明書を参照願います。

## 横浜車輛工業株式会社

お問い合わせは、営業課または品質管理課まで

営業課 TEL 045(471)9891

品質管理課 TEL 045(471)9107

<http://www.yokohama-sharyo.co.jp/>

\*1 高荷重用グリース(固体潤滑剤入り)